

ひとなる

白川を愛し、たくましく心のあったかい子を育む美濃白川

鍛えの場・芽生えを培う場・やすらぎの場・広がり場

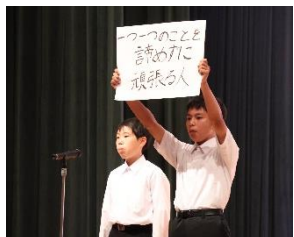
町内中学2年生の青雲のつどい

同郷の仲間との絆を深め
自己の生き方を考えた4日間

白川中学校・黒川中学校 2校合同研修



6月13日(火)、町内の2つの中学校が立志式を行い、『大人』に向けての決意を發表しました。一人一人が将来なりたい自分について力強く宣言するとともに、そのために何をすべきかを語りました。



14日(水)からは、福井県にある国立若狭湾青少年自然の家にて、2泊3日の宿泊研修を行いました。カッター船やシーカヤック、組み立ていかだといった、白川町にはない海での体験活動では、何もかもが初めてのことで、最初はうまくいかない事の連続でした。しかし、互いに声を掛け合い、協力することで、次第にうまくできるようになり、どの活動も満喫することができました。今回の青雲のつどいを通して、同郷の仲間との絆を強くするとともに、様々な角度から自分を見つめ、これからどう生きるかということ深く考えることができました。



次回、一堂に集まるのは6年後の「20歳を祝う会『大志式』」となります。今回、語った将来の夢を具現し、立派に成長している姿が今から楽しみです。

				
黒川中学校 3年 橋 怜佳さん 「伝統芸能の歌舞伎」	白川中学校 3年 田口 美羽さん 「考え、創り出すことの 楽しさ」	黒川中学校 3年 古田 結愛さん 「たった一つの命を守る ために」	白川中学校 3年 高木 柊路さん 「経験値」	白川中学校 3年 鈴木 瑛子さん 「一人一人の意識から」

町内中学生5名が、自分の考えたことをまとめ、堂々と発表しました。それぞれの主張には、こらからの自分の生き方についての力強い思いが込められていました。黒川中学校3年橋怜佳さんが、白川町の代表として中濃大会に挑みます。

伝統芸能の歌舞伎 橋 怜佳

「市松様」と言われるとどんな色を思い浮かべますか。ほとんどの人は紺と白を思い浮かべるのではないのでしょうか。これは江戸時代の歌舞伎役者、初代「佐野川市松」が「心中万年草」で着用した白色と紺色が人気を博し、大ブームを起こしたことが始まりだとされています。そのあの大人数アニメの主人公が着用している市松様様の原点は、江戸時代の歌舞伎にあったのです。私は昨年、授業の一環として歌舞伎を行いました。その際に、歴史や特徴などを隅々まで調べ、歌舞伎が現代に与えた影響について知りました。市松様様だけでなく、歌舞伎が現代に残したものはまだまだあります。「だんまり」という言葉やアニメやドラマでよく聞く「黒幕」も歌舞伎から生まれたものです。他にも、現在放送されている人気落語番組「笑点」でおなじみの「大喜利」も歌舞伎が元です。これらのことから歌舞伎が人々に与えている影響がとても大きなものであることが分かります。

しかし、歌舞伎には後世に伝えていくうえで多くの問題があります。

一つ目は、需要が減少していることです。現在若者の娯楽の中心はゲーム機や携帯電話などであり、歌舞伎などの伝統芸能に目を向ける機会が減少しています。東京都の歌舞伎座の発表では客席の八割が空席になる日もあり、観客の動員は厳しい傾向にあるようです。

二つ目は、一つ目からも繋がりますが、利益を生み出せないことです。歌舞伎座は、2022年3月から5月にかけての連結決算で3500万円が赤字になったと発表しました。これは、2021年と比べ、1000万円を上回る数値でした。この数値からも歌舞伎が生み出せる利益が少ないことが分かります。

三つ目は、後継者が不足していることです。歌舞伎は、役者がいなければ受け継ぐことができません。しかし、年々後継者は減少しています。もし、後継者がゼロになってしまえば歌舞伎は、そこで途絶えてしまいます。また、指導者も高齢化しており、維持が困難な状況です。

これらの問題はほんの一角に過ぎないでしょう。それでは、そういった問題を解決していくために私たちにできることはないのでしょうか。私は「見る・知る・体験する」とことが大切だと考えます。

私の住む黒川には、1889年に東座という舞台小屋が建てられました。この東座では、歌舞伎を実際に見たり、東座を守る保存会の人の話を聞くことができました。私は昨年の授業時だけで無く、今年の五月に開催された黒川東座ふれあい公演に義経千本桜の捕り手役として同級生四人と参加しました。練習を進める中で、昔の人のしゃべり方や動きなどを細かく学びました。本番はあつく感じました。照明の温度と人口密度のせいだけでなく、緊張感と舞台上立っているという高揚感が私にそう感じさせました。喜劇のため、お客さんが笑って来て緊張は解けていき、うれしさが溢れてきました。練習も含め、減多にできな経験をするのができ、いつも以上に仲間と一丸となれた気がしました。そして歌舞伎の楽しさや魅力を改めて感じました。公演を終えた時の達成感は味わったことのないほどの大ききで、「また挑戦してみたい」という気持ちになりました。

しかし、この貴重な経験ができる東座も裏方の不足や町民の歌舞伎離れが深刻化し、維持が困難な状況になってしまっています。東座を守るためには、積極的なボランティア活動や寄付が必要だと感じました。そして東座を守ることが伝統芸能である歌舞伎を後世に伝えることにつながると思っています。黒川という小さな範囲のことですが、こういった伝統芸能を見る・知る・体験する動きが全国で意識されれば、伝統芸能は継承されていくのではないのでしょうか。歌舞伎はたくさん魅力がある一方で、たくさん問題も抱えています。また、その魅力を伝えるための工夫も必要であると思えます。

私は、これからも自分の住む町にある伝統芸能や文化について体験する中で理解を深め、まずは地域の方々に見て・知ってもらい、未来につないでいけるような活動を積極的に継続していきたいです。

中学校部活動改革

第8回：部活動変遷の歴史 (白川中学校④ R4年度)

白川中の部活動等への参加体制は令和4年度に大きく変わりました。それは、白川中の女子ソフトボール部、男子バレーボール部は廃部になったがスポーツリンク白川に新設された「ブレイズ」や「ネクサス」で練習できること①、4時から5時までの概ね1時間、地域学校協働活動として「地域未来塾」(白川中では「放課後学習室」とも言う)が開設されたこと②、そして、部活動は自主的・自発的な参加によって行われるもの③という本来の趣旨により、放課後の過ごし方の選択肢が増えたからです。

例えば右の表で、生徒bは、部活はAに参加するが、クラブはBに参加するというものです。多様な過ごし方ができるよさと、成長期にスポーツに親しみ、技能や体力を向上させ、いろいろな人と関わる経験のどちらも大切にしていきたいものです。

白川中生徒の放課後の過ごし方 (R4)

生徒	午後4～5時	午後5～7時	備考
a	A部活	Aクラブ	同じ種目に参加
b	A部活	Bクラブ	違う種目に参加
c	A部活	-	部活のみで下校
d	未来塾	Cクラブ	未来塾からクラブへ
e	未来塾	-	未来塾のみで下校
f	-	Dクラブ	一旦下校し、Dクラブに参加
g	-	-	下校

-は部活やクラブ以外のものに参加している場合がある